

暮林さん（中央）と生産者の田端久子さん（右）、中川貞子さん



旬の野菜と加工品 直送便で消費者に

長瀨町に移住 暮林さん

【埼玉】「農産物を通じて町を盛り上げたい」と語るのは、長瀨町産の野菜や加工品を届ける直送便「ながとろ町のお土産野菜Torocolo」を発案した地域おこし協力隊の暮林まどかさん（45）。

暮林さんは県外で飲食業などに勤めていたが、趣味の登山をきっかけに同町の自然環境に魅力を感じ、2019年に夫の誠さんとともに同町に移住。同年に地域おこし協力隊に着任した。

暮林さんのミッション

は食をテーマにした「新しい土産品づくり」で、着任後すぐに町中を巡り、活動のヒントを探したという。その中で、地域の農業者の生産する野菜や干し柿、梅干しなど、町で古くから間食として親しまれる「小屋飯」に目をつけ、これらをより多くの人に楽しんでもらいたいと考えた。そこで、町の生産者から季節の野菜と加工品を募り、消費者の要望に合わせた季節ごとの直送便が始まった。

消費者からは「生産者の顔が見え、新鮮な野菜を毎回楽しみにしている」、生産者からは「販路の拡大はもちろん、農業者同士の交流も増えた」と好評だという。現在は暮林さん自身も加工品の開発を行う。

今年任期満了を迎える暮林さんは今後について、「町に定住し、直送便を事業化して継続するとともに、飲食店や加工所の開設など事業の幅を広げていきたい」と笑顔で話した。

ながとろ町のお土産野菜Torocoloは、インスタグラムの二次元コードから注文可能。



MADOKA_KUREBAYASHI
Torocolo
の二次元コード